

JSSSF ニュース

THE JAPAN SECURITIES SCHOLARSHIP FOUNDATION NEWS

32

公益財団法人 日本証券奨学財団 THE JAPAN SECURITIES SCHOLARSHIP FOUNDATION

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-13 第三証券会館6階 TEL03-3664-7113

Topic

奨学生懇談会において「未来を担う若者へのメッセージ」と題して、日本証券業協会会長稲野和利様から奨学生に対し、グローバルな人との出会い、多くの友達との絆を深め、繋がろう！と伝えられた。

平成25年11月15日の奨学生懇談会の開催において、岩崎理事長から次のとおり挨拶があった。

「この財団の設立時から、またその後の維持運営に多大なご尽力をいただいているのは、日本証券業協会です。本日、ご講演いただきましたことに対し、主催者を代表して心から御礼申し上げます。

さて、稲野氏は、2年ほど前に朝日新聞のデジタルコラム「仕事のビタミン」において、これから社会に出て活躍しようとする若者向けに、先輩として『仕事』、『働くこと』等の考えを半年間連載されました。その中で、『今の時代、この社会は大きな問題を抱えている。それは細分化された専門性の世界がコミュニケーション



ンを困難にすると同時に、複雑化された業務はより多くのコミュニケーションを求めている。その時点で最善策と思われる組織的対応を試みても必ず何らかの隙間が残ってしまう。という問題がある。

この隙間を埋めるものが、集合体の中で自然に形成される、組織を超えた人と人とのつながりである「非公式ネットワーク」だと思う。』と書かれている。

まさにこの目的こそが、財団設立以来、継続してきたことでもあります。

異なった学校の人々と、異なった専門学部の人々と、そして先輩、後輩、いろいろな方々と話し合い、絆を深めて繋がってほしい。」



東日本大震災の被害に遭われた皆様へ

平成23年3月11日に発生いたしました「東日本大震災」は東北各地に甚大な被害を与えました。東日本大震災で被災され、亡くなられた方々にご遺族に心よりお悔やみを申し上げます。また、被害を受けた皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

平成25年
(第38回)

奨学生修了式

平成25年3月8日(金)
千代田区一ツ橋「如水会館」

平成25年の奨学生修了式は、平成25年3月8日(金)、東京・千代田区一ツ橋の「如水会館」において挙行されました。平成25年に奨学生を修了されました国内奨学生43名、留学生3名の計46名の皆さんです。おめでとうございます。ご来賓として奨学生推薦大学の副学長・学生部長等、本財団の役員・評議員・選考委員等、さらに奨学生修了者で組織される証券奨学同友会の幹事等多数の臨席を賜りました。

本年度の修了式は、昭和50年の第1回から数えて38回目になり、修了者総数は3,334名となります。



岩崎理事長

奨学生修了式は、はじめに岩崎理事長からの挨拶があり、次いで、奨学生選考委員会委員伊達悦朗先生から、「フリーマン・ダイソンという理論物理学者の原稿のことから始めたいと思います。彼は、現在90歳近くで、アメリカのプリンストンの高等研究所の教授を長くつとめ、もともとは数学者でしたが、量子電磁力学の構築時に大きな貢献をし、科学の周辺に広い視野を持つ人です。この人がアメリカ数学会のインシュタインレクチャーで予定されていた講演の原稿があり、そのタイトルは、『Birds and Frogs』（「鳥」と「カエル」）といます。その中で、ダイソンは数学者を、BirdsとFrogsの二種類に分類しています。Birdsは、数学に関する見通し、展望を提示し、数学におけるいろいろな考え方をまとめる概念とか、さまざまな局面にあらわれるいろいろな問題を、共通性を見出してまとめることなどを行うタイプの数学者をいいます。もう1つのFrogsとは、数学の個々の特別なことを詳しく調べて、問題を一遍に、1つずつ解いていくタイプの数学者のことです。どちらも大事なもので、数学にとってはその両者とも必要である、という話から始まる講演の原稿です。この話にかこつけて三つのこととお話ししてみたいと思います。一つは、数学、あるいは数学者という

対象を、いろんな局面に、いろんな側面に読みかえてみようということです。例えば、それぞれの方の人となりで大別して、今、分けたような側面に分けてみることもできるのか、それで自分はどうかと試してみてください。そのときに私がお願いしたいのは、自分はこうであると判断することも大切かと思ったり、それは大いに結構なのですが、自分と違うタイプの人もある。そういうことを頭に入れておいてもらえればと思います。次に、今ではいろいろな数値目標を掲げて、しばしば、いわゆるワンフレーズという形で語られることが多いようです。ある目標達成という点からはその見方もあるとは思いますが、それとは違う側面も当然あっていいだろうし、そのように意識していかなければ、と思います。最後に、皆さんはこれまで大学、大学院での生活を通して、いわば1つのことを勉強、研究されてきました。今、理事長からもお話がありましたけれども、これから皆さんはそれぞれの進路を歩んでいかれることになり、その際にその専門の枠を離れ、他の領域に踏み入れることで多くの人とつながっていくこともあると思います。その時に違う見方、立場を意識するというのも思い出していただければと思います。」と、激励のメッセージが修了者に送られました。



伊達悦朗先生



紙谷智彦先生

次いで、学種ごとの代表者に、岩崎理事長から修了証書と記念品が授与されました。

その後、来賓の大学関係者を代表して、新潟大学副学長、農学部教授の紙谷智彦先生からは、「私たちは、



述べられました。

続いて、証券奨学同友会を代表して関西地区幹事の高田とし子様からの祝辞として「普段の生活では当たり前のようなことかもしれませんが、社会に出たらまず健康を大切にしてください。次に、周りの方々の良い所を採り入れる柔軟な心を持ちながら人とのつながりを

3.11、東日本大震災発生以来、2年を迎えようとしておりますが、この大災害で多くを失った一方で、被災地で復興を目指す人々から諦めない精神を学びました。経済活動の復活なしに真の復興はなく、真の復活につなげるために政界、財界、官界の動きが活発化しております。皆さんの学生生活を支えていただいている日本証券奨学財団が証券各社からの寄附によって支えられているように、証券会社は、日本経済を牽引する企業が株式を発行して資金を得るための重要なネットワークのかなめとなっております。見方を変えれば、経済活動の復活を願い、その期待に応えてくれそうな企業の株式に投資する国民の財産の一部が皆さんを支えております。諦めない日本への期待は皆さんの中にも注ぎ込まれているのです。今般の大災害は、災害で壊滅的な被害をこうむった地域の、多くの諦めない精神と、他人のためにつくすボランティア活動を通じて、人としての心のありようを学んだことも多いことでしょう。社会は多様な価値観から成り立っていますが、多様であるからこそお互いを理解する必要があります。皆さんがこの時代に学び、考え、行動したことは、皆さん自身の意識の中に深く定着していることでしょう。『今どきの若いやつは、』という言葉はいつの時代でも使われますが、今どきの若いやつは、高度経済成長の時代に育った今の年寄りに比べて真面目でしっかり物を考えているし、よい感性を持っていると感じています。修了される奨学生の皆さん、それぞれの地域で、また、それぞれの立場で日本社会の発展と世界の平和のために寄与してくれることを信じ、期待しています。」との激励の祝辞が



佐藤浩輔さん

大切にしてください。そして、今の環境や周りの方々への感謝の気持ちを大切にしてください。皆さんにそういった基本的な事を基に、広い世界に羽ばたいて行っていただきたいと思います。最後に、これからは皆さんに同窓の仲間として同友会でお会いしたいと思います。秋の懇親会でお目に掛かれることを楽しみにしております。」と修了生への同友会参加が呼び掛けられました。

最後に、修了者を代表して、北海道大学大学院修士課程の佐藤浩輔さんが謝辞を述べて、修了式は終了しました。

式典修了後、懇親パーティーに移り、奨学生選考委員会委員、慶應義塾大学法学部教授の宮島司先生ご発声による乾杯の後、大学や学種の垣根を越えた交歓が行われ、互いの健闘と再会を約して散会しました。



宮島司先生

平成25年大学別修了・採用者数

大学名	修了	採用	大学名	修了	採用
北海道大学	2	2(1)	横浜国立大学	0	1
東北大学	1	2	新潟大学	1	3
筑波大学	0	1	名古屋大学	1	2
東京大学	2	2(1)	名古屋市立大学	2	2
東京工業大学	1	2	京都大学	2	2
お茶の水女子大学	0	1	同志社大学	2	1(1)
一橋大学	0	1	立命館大学	3	2
首都大学東京	1	0	大阪大学	3	2
慶應義塾大学	4(1)	2(1)	大阪市立大学	2	2
上智大学	3	3	関西大学	2	2
中央大学	2	2	関西学院大学	1	2
日本大学	0	2	神戸大学	0	1
法政大学	2	2	広島大学	1	2
明治大学	2	1	九州大学	1	0
立教大学	1	2	総合計	46(3)	50(4)
早稲田大学	4(2)	1			

※()は留学生数で内書きである。

平成25年度(第40回) 奨学金授与式

平成25年7月19日(金) 千代田区一ツ橋「如水会館」

平成25年度の「奨学金授与式」は、平成25年7月19日(金)午後3時から東京都千代田区神田一ツ橋の「如水会館」において挙行されました。本年度採用された奨学生は、30大学の奨学生50名の皆さんです。おめでとうございます。

来賓として推薦依頼大学の副学長、学生部長及び奨学担当者、当財団役員、評議員、さらには奨学生の選考に当たられた奨学生選考委員の先生方など多数の臨席を賜りました。

本年度の奨学生授与式は昭和49年度の第1回から数えて40回目となりますが、本年度採用の奨学生を含めた採用奨学生の総数は3,510名に達しています。



まず初めに、岩崎理事長が挨拶に立ち、「我が国における数多い大学の中から権威ある30大学、大学院に在学する方々であり、資質優秀な学生の中から学業成績と人物重視で推薦いただき、さらに、本財団の選考委員会による、厳しい審査に見事合格された奨学生の皆さん、心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。

現状、我が国は、少子高齢化の問題、社会保障制度の限界、環境エネルギー問題、安全保障のあり方等々解決を迫られる問題が山積みしております。皆さんには、自己が目指す研究目的や人生目標に向けて、大いに勉学に励み精進し充電していただきたい。そして皆さんが卒業する2～3年後、あらゆる分野で皆さんの豊かな知性に裏付けされた、若々しい勇気ある挑戦を社会が待ち望んでおります。是非、新しい日本の創り手・担い手になってほしいのです。」との挨拶がありました。

次いで、奨学生選考委員会を代表して小林康夫副委員長(評議員)から、「みなさんは、多くの候補者から

なる厳しい選考を勝ち抜いて、ここにめでたく奨学金を得ることができました。この奨学金は無条件です。いかなる制約も課さな

い、後で何かを要求しない奨学金です。条件といえば、修了者で組織する親睦のための証券奨学同友会に加入していただくことだけ。そこで、わたしのお願いは、いまこの場でこそ、自分がそういうお金をもらう権利が、資格はあると思うか、この社会で、いかなる対価も要求されずに、2年間にわたって月額数万円のお金が自分に降ってくるのは当然のことなのかどうか、そこを考えてほしいということです。この奨学金は、証券会社からの寄附で成り立っています。つまり、証券会社の人たちの願いがこもっています。証券会社は、ある意味では、お金に関してとっても厳しいところです。企業の活動に投資して、その利益を回収することに、日々一所懸命に仕事をしている人たちですね。その人たちが自分たちの仕事を通じて作り出す『未来』だけではない、もう一つ別のものがある、いや、なければならないとお考えになったのではないかと。つまり、条件や制約が一切ないような活動に、お金を使うということ、つまり無条件で『人』に投資するというのが、社会のなかでやっばりなくてはいけないのではないかと。そういう願いを、金融・証券という厳しい世界の最先端で働いている方々がおもちになって、その総意が、ここに、ほとんど無条件でみなさんに『投資』することになったわけです。無条件というのはありがたいが、しかしこわいですよ。だから、ぜひ、これはあたりまえのことではなく、ここには無条件だけど、なにか真に求められていることがある感覚を持っていただきたい。それは何か。『将来、社会的指導的役割を果たすこと』



岩崎理事長

と募集要項には書いてありますが、わたしは、それとは少しちがった言い方で、今日、『自分の心の中に約束という場所をつくってほ



小林副委員長

しい』と申し上げます。つまり、皆さんの心の中にも、無条件で、自分の利害を求めずに、人間とかかわるといふ場所を、どんなに小さくてもいいから、つくってほしい。言い換えれば、みなさんも『願い』をもってほしい。小さな願いを持つことが、あなたたち自身の人生を、また自身の能力を本当に豊かにさせるのであれば、『指導的役割』なんて果たせるわけがありません。他の人々の願いに、自分がすくわれたこれをきっかけに、あなたたち自身の心の中に小さな願いの場所を開いてくれることを、私からお願いしたいのです。ただ自分の苦しい生活を助けてくれるお金をもらえるというだけじゃなくて、それを活かして、命をもっと輝かせる、もっと花開かせる、そういうきっかけになってほしい。われわれは、みなさんが、どう花開いていくかなってずっと見ているので、ぜひ頑張ってくださいね。期待しています。」との祝辞が述べられました。

続いて、博士課程生、修士課程生、学部生のひとり一人が読み上げられ、各学種の代表者に岩崎理事長から、奨学生証書と奨学金が授与されました。

その後、来賓を代表して、関西大学黒田勇教授(副学長兼学生センター所長)から、「一つは、私の経験において、一生懸命受験勉強して大学に入ったときに、母親から、『よかったね』の後で、『一生懸命勉強したからね。でも大学入ったら教養を身につけよう』と言われたことを思い出しました。その後しばらくしてから、母親に『お母ちゃん、教養を身につけようって何年前かに言ってたけど、お母ちゃん本当に教養って何かわかってんの?』

と聞いたところ、母から、『教養って人の立場に立って物を考える力や』と言われ、私は『え?』と言ったことを思い出しました。その『教養』の意味が次第にわかってきた



黒田勇教授

のは、母親が亡くなってもう23年、私も還暦を過ぎ、教養がちょっとずつ身についたかな、ついてないかな』というも思っております。これから、多分、皆さんは身につけるだろうけれども、もっと教養を身につけてください。自



奨学生代表 門輪祐介さん

分の勉強とともに、もっと教養を身につけてください。そしてもう一つ、どうして証券会社の団体が皆さんにお金を出すだろうということ、また私の個人的な経験を思い出を申し上げたい。先ほど小林先生のお話にもあったように、財団がなぜ皆さんにお金を提供するんだろう。皆さんが元気に生きていることに感謝しているからです。私たち、財団の皆さん、それから各大学の先生方、もちろん皆さんのお父さんお母さん、皆さんがこの世の中に存在していることにすごく感謝しています。皆さんの顔を見てみると、ああ、私の娘と同じような年だ、っていうときに、みんな元気な返事をしてきている、ありがとうっていう気持ちがありました。そういう気持ちを、皆さんの周りの人々を、皆さんが持っているということを受けて、これからはもしっかり元気に頑張ってください。」との激励の祝辞が述べられました。

最後に、採用奨学生を代表して、一橋大学大学院博士課程の門輪祐介さんから今後の研究の抱負と謝辞が述べられ、奨学金授与式は滞りなく終了しました。

式典終了後、会場を改めて参加者全員による「懇親会」が催され、奨学生選考委員の法政大学教授、廣瀬克哉先生のご発声による乾杯の後、大学、専攻、世代の垣根を越えた自由な交歓が行われました。



廣瀬克哉先生

「奨学生推薦大学連絡会」

授与式の式典に先立ち、午後2時より「奨学生推薦大学連絡会」が開催されました。

同連絡会は、毎年、奨学生選考委員会委員長及び委員により奨学生推薦大学の関係者に対する当年度の奨学生選考の経緯等についての説明と、相互の意見交換を行い、もって資質優秀な学生の推薦をお願いし、また奨学生への支援に関し連携を図るために開催しております。

本年度は30大学の副学長、学生部長をはじめとする奨学担当者の皆様にご参加いただき、佐々木正峰奨学生選考委員会委員長を筆頭とした奨学生選考委員及び財団事務局との間で活発な意見交換が繰り広げられました。

平成25年度(第40回)研究調査助成金受給者 決定

平成25年度の研究調査助成金受給者は、11件を選定して助成金額1,083万円を決定して給付いたしました。また、研究出版助成金受給者は、3件を選定して助成金額300万円を決定し、刊行時に給付いたしました。

平成25年度の研究調査助成金は、助成金募集額1,000万円として、助成対象分野を証券金融経済分野(証券、金融、財務・会計、企業・経営、法律、経済)の研究事案に絞り、また研究者の募集対象を一般の民間研究

機関の研究まで広げて、平成25年4月から6月末まで募集を行い、その結果、26大学から29件、申請金額2,840万円の応募があり、同年8月1日で11件、助成金額1,083万円の助成金受給者を決定し、給付いたしました。

◇平成25年度(第40回)研究調査助成金受給者名簿

平成25年8月1日決定
公益財団法人 日本証券奨学財団

研究調査課題	研究代表者	研究形態	助成金額
会計制度の変革が企業のディスクロージャー行動と証券市場の価格形成に及ぼす影響に関する研究	早稲田大学大学院 ファイナンス研究科 教 薄 井 彰	個人	100万円
株主総会における投票結果と議決権行使助言会社のアドバイス	九州大学大学院 経済学研究科 教 内 田 交 謹	グループ	100万円
金融証券市場とマクロ経済との相互関連性を考慮したストレステスト手法の研究	神奈川大学 経営学部 教 菅 野 正 泰	個人	100万円
アジアの金融機関のクロスボーダー及び多角化M&A・提携の評価について	青山学院大学 経済学部 教 白 須 洋 子	個人	100万円
企業買収と関係会社創出を通じた日本の新興企業の成長モデルに関する研究	大阪市立大学大学院 創造都市研究科 教 新 藤 晴 臣	グループ	98万円
企業買収の最適タイミングと企業の信用リスク	北海道大学大学院 経済学研究科 教 鈴 木 輝 好	グループ	100万円
戦前期東京証券市場の効率性 — 株価形成、企業金融、そして企業統治	東 京 大 学 研 究 所 社 会 科 学 部 教 中 林 真 幸	個人	100万円
金融仲介機関は取引企業の倒産リスクにどう影響を及ぼすのか?	神戸大学大学院 経営学研究科 教 畠 田 敬	グループ	100万円
日本企業の財務・投資活動に対する市場の効率性とその市場構造の解明	東 海 大 学 学 部 政 治 経 済 学 科 教 久 田 祥 子	個人	85万円
近代会計と資本市場の共進化 — 近代日本における株式会社の発展—	秀 合 明 大 学 学 部 経 営 学 科 講 師 結 城 武 延	グループ	100万円
新株発行・新株予約権発行の法規制をめぐる諸問題	神 戸 学 院 大 学 学 部 法 学 部 教 吉 本 健 一	グループ	100万円
11件	—		1,083万円

平成25年度の研究出版助成金は、助成金募集額300万円として、研究調査助成金と同様に、助成対象分野を証券金融経済分野(証券、金融、財務・会計、企業・経営、法律、経済)の研究事案に絞り、募集対象を昨年同様大学の研究者及び一般の民間研究機関の研究

のとし、平成25年4月から9月末まで募集を行い、その結果、5大学から7件、申請金額690万円の応募があり、同年11月1日で3件、助成金額300万円の助成金受給者を決定し、給付いたしました。

◇平成25年度研究出版助成金受給者名簿

平成25年11月1日決定
公益財団法人 日本証券奨学財団

出版著書名	受給者	出版形態	助成金額
米国リテール金融の研究	名城大学経営学部 名城大学大学院 経営学研究科 教 前 田 真 一 郎	個人	100万円
民事再生法の実証的研究	一橋大学 法学研究科 教 山 本 和 彦	本人 他14名	100万円
中国消費財メーカーの成長戦略	中 京 学 院 大 学 学 部 経 営 学 部 専 任 講 師 李 雪	個人	100万円
3件	—		300万円

平成25年度 奨学生懇談会

「奨学生懇談会」は、大学・学種・専攻・年次を異にする奨学生相互の交流をもって親睦を図るため、関東及び関西において開催しております。

また、平成24年度からより多くの奨学生との交流・親睦を希望する意見が寄せられたことを踏まえ、関東地区では、東京近郊の15大学に北海道大学、東北大学、新潟大学の3大学を加えて18大学で開催し、一方関西地区では、京阪神の8大学に名古屋大学、名古屋市立大学、広島大学、九州大学の4大学を加えて12大学で開催しております。

平成25年度は、関東地区において平成25年11月15日如水会館において、講師に日本証券業協会会長稲野和利様を迎えて開催し、また関西地区において平成25年11月22日北浜フォーラムにおいて、講師に修了者でありまた証券奨学同友会の関西地区幹事高田とし子様を迎えて開催いたしました。

◇関東地区奨学生懇談会

平成25年11月15日(金)午後6時から如水会館3階「富士の間」において開催いたしました。

出席者は、18大学の奨学生69名の他、同友会会員42名、大学関係者16名、財団関係者14名の総勢141名でありました。

懇談会は、初めに岩崎理事長から挨拶があり、続いて講師に日本証券業協会会長稲野和利様を迎え、「未来を担う若者へのメッセージ」と題してご講演をいただきました。

なお、会場受付は、お茶の水女子大学、一橋大学、首都大学東京の奨学生の皆様にお手伝いいただきました。



◇関西地区奨学生懇談会

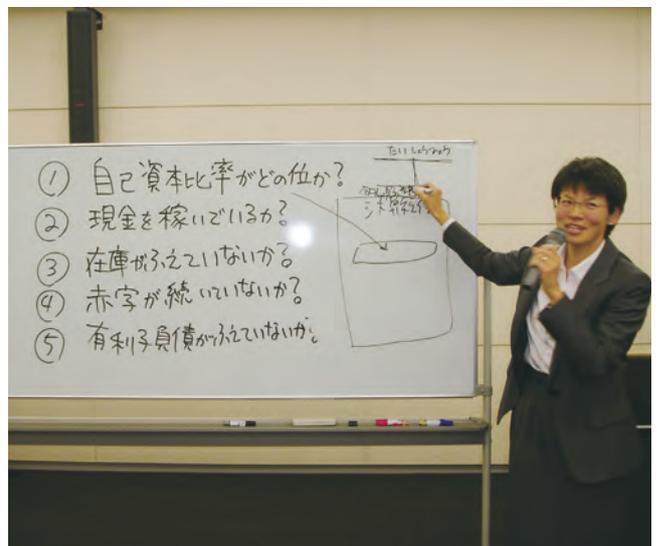
平成25年11月22日(金)午後6時から北浜フォーラムにおいて開催いたしました。

出席者は、12大学の奨学生53名の他、同友会会員19名、大学関係者12名、財団関係者3名の総勢87名でありました。

懇談会は、初めに岩崎理事長から挨拶があり、続いて講師に修了者で同友会関西地区幹事であり、また現在、日本銀行大阪支店にお勤めであります高田とし子様を迎え、「20年の社会人経験から学んだこと」と題してご講演いただきました。

講演は、奨学生と会話をしながら進められ、学び取った経験について丁寧な説明を交えた講演でありました。

なお、会場受付は、立命館大学、大阪市立大学の奨学生の皆様にお手伝いいただきました。



平成25年度 関東地区奨学生懇談会

講演 「未来を担う若者へのメッセージ」

日本証券業協会会長 稲野 和利

ただいま、ご紹介にあずかりました稲野でございます。本日は私の野村時代の直属の上司であり私自身が尊敬する大先輩である岩崎理事長を初めとした財団関係者の方々そして奨学生修了者及び奨学生の皆様を前にして、こうしてお話しできる機会を頂戴し光栄至極に感じる次第であります。これから「未来を担う若者へのメッセージ」というテーマで、来年あるいはその先に社会へ雄飛していかれんとする前途有為の皆さんに向けて、私自身からの思いをお伝えしたいと思います。私自身は大学卒業以来37年間、企業社会に身を置いてまいりました。その私にできることは自分自身の経験の中から皆さんにとって参考になるであろう何かを抽出してお話しするという事だろうと思います。何分、浅学非才の身であり体系立ったお話にはならないかもしれませんが、しばしおつき合いいただければと存じます。

さて初めに、私自身の新入社員時代について少しお話をしたいと思います。今からもう37年も前になりますけれども、私は野村証券に入社いたしました。1976年のことでもあります。当然、ここにいらっしゃる大多数の方々はまだ生まれていないころであります。なぜ

野村証券に入社したかという顛末は、それはそれで興味深いものがあるわけですが、ここでは省略して新入社員時代の話をしていただきたいと思いません。野村証券に入社して配属されたのは東海地方の一支店でありました。担当業務は営業ということで、個人や中堅・中小企業のお客様に対して株式や債券あるいは投資信託といった証券投資を勧め、株式の売買手数料や投資信託の募集手数料を稼得していくというのが仕事であります。しかも担当顧客は全くのゼロからのスタートでありまして、新たな顧客をみずからの手で新規開拓しなければいけない。最初は困ったわけがありますけれども大いに努力し、そして大変な労力を費やした結果、急速に仕事ができるようになっていきました。多分、要領もよかったのだと思います。しかし、仕事ができるようになっても新入社員として、たとえ異例の成績をおさめようと私自身に晴れがましい気分は全くなかったわけでありました。自分自身の会社生活における出発点の気分を一言で言いあらわすとすれば、それは青春の屈託ということにでもなるのでありましょう。日曜日の夜というものは、いつも憂鬱な気分でありました。翌日は月曜日で、仕事のことが

頭をよぎった瞬間に気分が沈むということでもあります。仲のよい先輩と2人で日曜の夜に飲みに行くと定番の会話になります。要は会社の悪口ということでもあります。「やっつけられないよな」と先輩がつぶやき、「やっつけられませんよね」と私が返す。しばらくすると私から「やっつけられませんよね」とつぶやき、先輩が「やっつけられないぜ」と返す。文脈的には全く意味のない会話であっても、そのような会話を通じて気分は共有されていくものであります。会社的には歓迎されないような気分であってもそれを共有することによって、当人たちは日々の現実になんとか向かい合っていたということだと思えます。その青春の屈託なるものは一体どこから来ていたのか。それは学生気分の抜け切らない身からすれば、会社という不可思議な存在に対する生理的な抵抗とも言えるものであったように



稲野和利会長

はじめに



どのような新入社員時代を過ごしたか

- 一言で言い表すとすれば…「青春の屈託」

⇒「集団主義」への生理的抵抗



「やってられない」という非生産的言葉の共有



「自分たちで何とかしよう」という建設的な気分の共有

© Japan Securities Dealers Association. All Rights Reserved.

はじめに

思います。その抵抗の対象が集団主義というものでありました。個人を集団に強烈に同化させることによって推進力を持たせるといふ、そのような方法論が支配的な世界。会社という指揮命令系統のはっきりしている世界に特有の強制の体系。命令という形での業務遂行形態。なぜ、全ての仕事は命令という形態をとるのか。なぜ、命令によってみんなで等しく残業をするのか。個々人の主体性や自主性を尊重することによって、実はもっと生産性が上がるのではないか。新入社員としては不遜であったかもしれませんが、そんなことを考えたりもしていたわけでありました。そこかしこで、会社のために、会社のためだというような言葉が飛び交う世界が私自身は嫌いでありました。本音ではなくて建て前で公式会話が行われる世界。その息苦しさ、会社主催のさまざまな行事。大運動会やあるいは社内旅行といったものは、それはそれなりに楽しかったりもするわけでありましたけれども、しかし一種の押しつけがましさとともに裏腹でありました。会社がいつも自分たちに対して、会社とはこんなにもありがたいものだというのを押しつけようとしているような気がして嫌でした。

仕事において良心を殺すという方法論も目の当たりにしました。ここで良心を殺すというのは、非常に悪い言い方であるわけですが、何を意味しているかという、この証券の営業の世界でいうと、自分自身が営業マンとしてアドバイスを送った結果としてのお客様の勘定、顧客勘定における損失に関して何の痛みも覚えない状態というものをいいます。お客様の損失に関して全く何の感情も持たない。お客様は、単にこちら側の都合による収益稼得の道具と見るということでもあります。また当時、お客様と証券会社の間には

大きな情報の非対称性というものが存在していました。今からすれば信じられないような話でありますけれども、例えばリアルタイムの株価ですら、お客様の側で把握することは困難であったということでもあります。そのような情報の非対称性というものを不当に利用していくということには、普通はためらいがあってしかるべきであります。良心を殺すとそのような不当利用に対してのためらいがないということになります。

さて、良心を殺すと一旦は仕事ができるようになります。マシンのようにお客様に株式売買を推奨・勧誘して約定していく。手数料収入は上がる。しかし、そのようなことを繰り返していると、人間としては確実に劣化していきます。会社というものは怖いものだと思います。会社はそこで働く人の人間としての劣化をもちろん全然望んでいない。それにもかかわらず、会社という装置が結果的には人をそこまで追い込んでいくというような現実も見聞したわけでありました。なぜ、良心を殺すというようなことができるのか。会社のためだという割り切りであります。普通の人はそのようなことはできないし、みんなためらうわけでありました。自分がしようとしていることが正しいことかどうかを考えます。しかし、会社のためだという言葉は、そこに大きな力を与えて割り切りをさせてしまうのです。会社のためだという言葉で最終的にその場は割り切ったとしても、実は常に後味の悪さが残ります。えも言われぬ苦さが残ります。砂をかむような気分を味わうということがあります。会社のために、会社のためだということが便宜の象徴のような言葉であります。会社のためだという言葉自体は、その一語をもってして否定されるべきではないのでありましようけれど、本来は会社のためという便宜的な言葉の向こう側にある本質的なものこそが意識されなければならないのに、それが会社のためという、いってみれば便利な言葉で語られたために、企業内においてどれだけ本質的な



ものが見過ごされようとしているのか。そのような言葉だけに支配された行動が一時的に利益を生んだとしても、結果どれだけの得べかりし利益を失う結末となるのか。会社のためにという言葉のもとで、最終的にはどれだけたくさんの働く人が不条理を感じているのか。そのような複雑な感情が先ほど申し上げた、やっつけられないよなという言葉になるわけでありませう。

やっつけられないよなという言葉は、屈託を象徴的に表現している言葉でありませう。その言葉はもちろん非生産的な言葉でありますけれども、しかしそれは生産的であるかどうかは別にして本音の言葉であったわけでありませう。その本音の言葉を発する場があるかどうかということが重要でありませう。そのような場は非公式の場ではありませうけれども、大きな意味がありました。非公式のコミュニケーションに意味があったということでありませう。そして非生産的な言葉、やっつけられないよなという言葉からの出発であっても、やがてそれが、自分たちで何とかしようじゃないか、この会社をいい会社にしたいという建設的な気分の共有につながっていくのでありませう。このようにお話ししてくると、現代の日本に生きる皆さんからすれば想像を絶するようなひどい会社に聞こえるかもしれませんが、しかし当時の日本の企業社会では、大抵の大企業において同じような光景があったのでありませうと思ひませう。自分にとって幸いだったことは、同じような気分を共有し、そしてそれを前向きなエネルギーに最終的には転化していくことができた多くの仲間や先輩がいたことでありませう。仲間と濃密に本音を語り合うコミュニケーションがあったからでありませう。だからこそ、あの時代に感じたことを忘れてはいけないうと今思ひませう。私自身が直面する問題は変わっていても、この会社をいい会社にしたい、この組織をいい組織にしたいという思ひを忘れてはいけないうと常に自問してきてまいりました。今の日本の企業社会はいわゆるグローバル化が進み、当時とは環境も変化しています。しかし、どんな時代であっても企業・会社という組織、あらゆる組織は何がしかの問題を抱えています。その何がしかの問題を放置しておけば、当初は小さかった問題も大きくなり、組織全体をむしばんでいくということも常に起こり得るわけでありませう。これから皆さんは仕事の現場で感じることを大切にしていって、たとえ世間知らずの青い問題意識と言われようといふ自分の感じることに正面から向き合っていってほしいと思ひませう。それこそが、皆さんの会社生活、社会人生活における出発点となるはずでありませう。



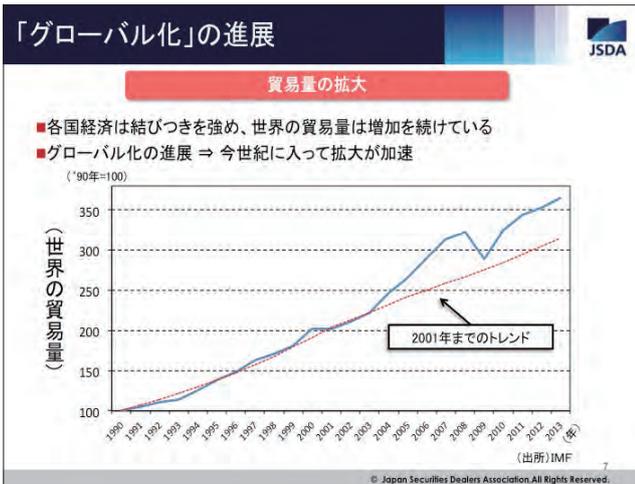
6ページ

さて、ここから少し話が込み入ってまいりますが、今、グローバル化という言葉を出しました。そのグローバル化について少し考えていきたいと思ひませう。グローバルというのはグローブという言葉から来ているわけでありませうが、グローブとは地球であります。そしてグローバル化とは英語のグローバリゼーションであって、このスライドにあるように人・物・資金・情報といったものが、国境を越えて地球規模で自由に行き交う社会の実現というものを意味しています。かつてよく使われた国際化という言葉との関係を見ると、国際化という言葉が国と国、国家の存在というものを強く意識しているのに対して、グローバル化とはそもそも自由な経済活動などで国家・国境を自然的に越えることが意識されているわけでありませう。グローバル化といった言葉のほうが概念的には広がり大きいということになります。そこで、このページには自由・同等・競争という3つのキーワードが提示されておりますけれども、世界中を意のままに動くことができる自由は、世界中に同等の機会が与えられていくということの意味し、その結果として世界中が競争相手になるということでありませう。特にこの関係は経済社会・企業社会において顕著であるということができます。

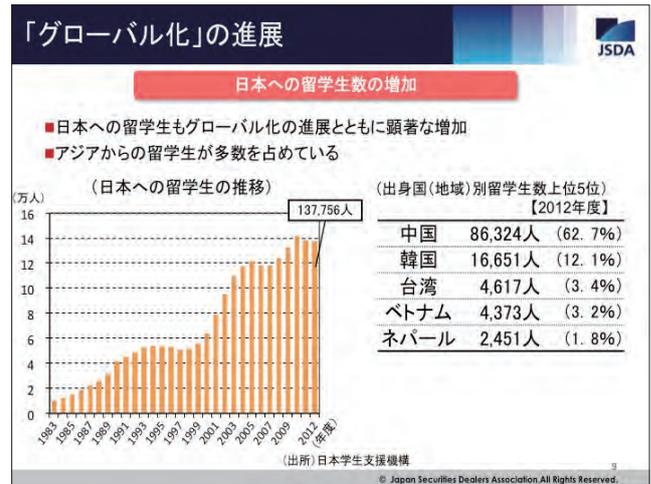
さて、この7ページのグラフは全世界の貿易量の変化というものを、1990年以來の23年間にわたって見たものであります。2001年までを赤で表示し、それまでのトレンドをもとに延長したものを点線で表示しておりますけれども、2001年以降、貿易量はこのかつてのトレンド線を上回っており、明らかにそれ以前と違う傾向になっているということがおわかりいただけるかと思ひませう。つまり、2001年以降は貿易量の拡大がそ

平成25年度 関東地区奨学生懇談会

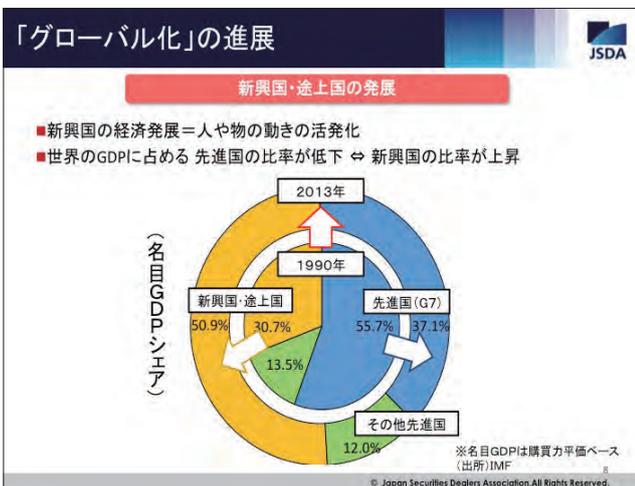
講演「未来を担う若者へのメッセージ」



7ページ



9ページ



8ページ

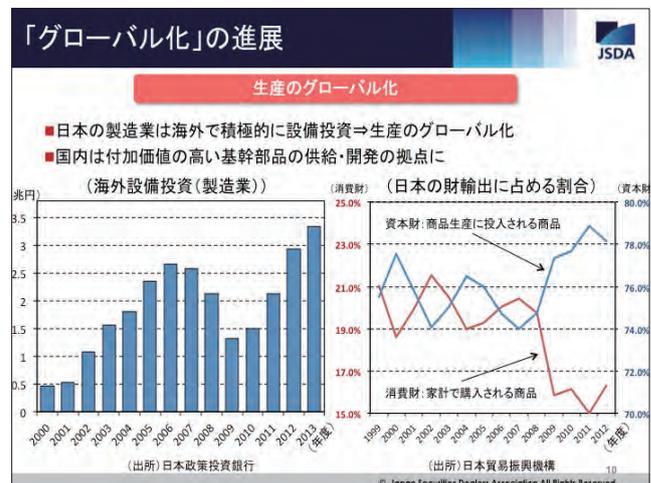
れまでにないスピードで加速しているということであり、その背景には、新興国が経済を成長させ世界貿易に参戦したことにより貿易量が増大していったという構図があるわけであり、

8ページでありますけれども、今、新興国という言葉を使いましたけれども、今日的には新興国をどのように定義するかというと経済成長率が世界平均よりも高く、かつ1人当たりのGDP水準が世界平均よりも低い国と定義するのが一般的であります。中国・インドといったような国が含まれていることは皆さんご承知のとおりであります。アジアの中にはタイ・マレーシア・インドネシア・ベトナムを初め発展の可能性を秘めた多くの新興国が存在しています。このグラフにおいては、1990年と2013年の2つの時点間で世界のGDPの構成比を分解して示しております。一見しておわりのとおり、G7を中心とした先進国が1990年比では大きくシェアを落とす一方で新興国・途上国と呼

ばれるグループが大きくシェアを伸ばし、今や世界経済の半分は新興国・途上国が占めているということがおわかりいただけるかと思えます。

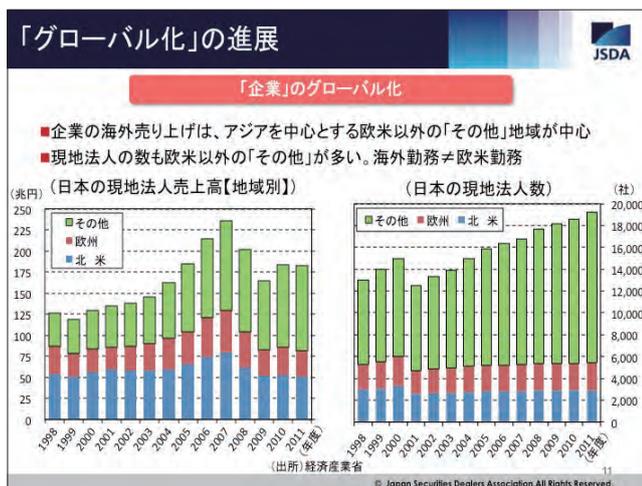
さて、9ページになりますけれども、日本への留学生数も顕著に増加しているわけであり、ここ10年ほどで倍増となっているのは、このページにあるとおりであります。ただ、このグラフでいう留学生とは専門学校等も含んでおり大学だけの数字はなく、また実質的には就労目的の留学があるといった点にも注意が必要であります。しかしながらいずれにせよ日本で学ぶ・働くということを目的とした人の流入は増加しているということがおわかりいただけようかと思えます。ここでも中心は圧倒的に中国であり、韓国・台湾・ベトナムといった国々が続いています。近年、こうしたアジアからの留学生への採用を企業も積極的に行っているということでもあります。

さてここで今、企業という言葉を出しましたけれど



10ページ

も、次に日本企業のグローバル化ということについて見ていきたいと思えます。日本の企業、とりわけ製造業における海外との結びつきは強まっております。左のグラフにありますように製造業における海外設備投資は、近年、大きく増加してまいりました。海外設備投資が増加しているということは、海外現地法人等における生産が拡大しているということの意味しているわけであります。世界中を見渡すならコストや物流等の観点で日本企業は最適立地を求めて、いわば生産のグローバル化が進んでいるということであります。この結果、右のグラフにありますように消費財の生産拠点は国内から既に海外に大幅に移転しており、あるいは生産の担い手が海外企業にかわり、製造業においては、日本国内は価値の高い基幹部品の供給や開発の拠点となっているのが今日の様相であります。



11ページ

さて、11ページの日本企業の海外現地法人の売上高でありますけれども、ここ20年ほどで大きく増加してまいりました。2011年度の海外現地法人売上高は180兆円に達しています。リーマンショックの後、欧米の回復は鈍い足取りをたどってきたわけでありまして、アジアを中心とするその他地域の販売動向は堅調であり、その比率は大きく上昇しています。右側のグラフにありますように海外現地法人の数も、今や欧米よりもその他地域のほうがはるかに多くなっています。20年以上前には海外勤務といえば欧米先進国で働くというイメージでありましたけれども、もはやその時代ではないと言えようかと思えます。

12ページになりますけれども、日本企業の海外現地法人で働く人たちの数も大幅に増加しています。かつては100万人程度だったのが、直近では500万人を超え



12ページ

るほどに増加しているということであります。当然そこで働く人たちの国籍も多様化しておりますので、もはや日本企業は日本人だけの会社ではないと考えるべきでありましょう。また、日本企業のグローバル化に伴い海外で働く日本人の数もふえています。現在、海外在留邦人数は120万人弱に達しております。そこには日本企業の海外拠点や現地法人で働く人たちも含まれています。ちなみに長期滞在者数というカテゴリーで見ますと、国別では米国で暮らす日本人が24万人と最も多くなっており、次が中国で14万人、その次はタイで約5万人ということになっています。一方、都市別で申し上げますと、最も多くの日本人が暮らす都市は中国の上海であり、その数は5万7000人に及んでいます。今日、日本企業に就職しても働く場所は日本だけとは限らないというのが現実であります。

このように経済がグローバル化していく。そして企業の活躍ステージがグローバル化していくということは、イコール競争の激化というものを意味しているわけであります。グローバル化した世界は企業にとって厳しい環境でもあります。それは、今まで目の前に存在しなかった新たな競合企業とも戦わなければならないということの意味しており、国内においてどれほど強い産業であっても、対応を誤るとグローバルステージでは競争力が失われていくということもあり得るわけであります。また、グローバル化によって国境という壁が取り除かれますと、物の値段や労働者の賃金が世界で均等化する方向に向かうわけであります。先に述べましたとおり、利潤追求を目的とする企業の活動から見れば、適材適所で生産手段を手に入れ、そしてマーケットを確保するというを展開していくわけですから、生産拠点は当然原材料や賃金の安いところ

に流れていってしまうからであります。その結果、日本国内においても企業は人件費をなるべく低く抑えるために非正規雇用を拡大するといったような動きが見られるなど、我が国の雇用の面においても大きな影響を与えているということを知っておく必要があるわけです。

「グローバル化」の進展

「企業」のグローバル化

- グローバル化した市場 = 活躍の場が広がる / 競争が激化する
- 政府は企業の国際展開を「成長戦略」に位置づけて後押し

国際展開戦略

「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」より

- 1 戦略的な通商関係の構築と経済連携の推進
TPP, RCEP(東アジア地域包括的経済連携)等のルール策定
- 2 海外市場獲得のための戦略的取組
インフラ輸出、クールジャパンの推進
- 3 我が国の成長を支える資金・人材等に関する基盤の整備
外国企業支援・誘致体制の強化、グローバル人材の強化

13ページ

こうした中でことしの6月、日本経済再生に向けたアベノミクスの3本目の矢として日本再興戦略が閣議決定されました。その中で、「日本産業再興プラン」「戦略市場創造プラン」とともに提示されたのが国際展開戦略でありました。それがここに図示されております。具体的には積極的な世界市場展開と対内直接投資拡大等を通じ、世界の人・物・お金を日本に引きつけ世界の経済成長を取り込む。そして、日本国内の徹底したグローバル化を進めるとあり、2020年までに、潜在力・意欲ある中堅・中小企業等の輸出額を対2010年比で2倍にするという成果目標も設定されているわけです。国家を挙げてのこうした取り組みによって、これまで以上に日本企業がグローバル化し、そして皆さんの活躍ステージも世界規模への広がりを見せていくということでもあります。

では、こうしたグローバルステージで働く人たちにとって求められる人材要件とは一体何なのか、そこで生きていくための要件とは一体何であるのか。ここでは3つの要件を挙げてあります。それは、コミュニケーション能力、グローバルな視野、そして多様性に対する受容・柔軟性であります。それぞれについてこれからコメントしていきたいと思っております。

コミュニケーション能力であります。コミュニケーション能力は必須であって、そこで英語の言語能力と

「グローバル化」の中で求められるもの

求められるスキル

コミュニケーション能力

- 英語は世界共通語に最も近い言語 = 基礎的な技術
- 意思疎通は言葉の問題だけではない

グローバルな視野

- 世界の変化に敏感であること
- 直接関係が無くても、国外の動きに無関心であってはならない

多様性に対する受容・柔軟性

- 相手は欧米先進国だけではない
- 多様な習慣、多様な考え方、多様な環境への対応力が問われる

15ページ

15ページ

いうものは基礎的素養と考えるべきでありましょう。世界で最も多く話されている言語は中国語であります。その中国においてもビジネス社会において英語は必須の要件となりつつあります。ビジネスの世界では英語は世界共通語ともいえる言語となっている以上その習得は必須であります。ただもちろん、英語が話せたり読めたりするだけでは必要条件を満たしただけであり、十分条件ではないということをご理解しておく必要もあります。重要なのは言語というスキルを使ってどのようなコミュニケーションを図るのかということであり、もちろん当然でありますけれども、話したり書いたりすることの中身が大事であるという当たり前のことでもあります。意思疎通というものは言葉の問題だけではないということでもあります。そしてコミュニケーションの問題というものを考えるに当たっては、場という問題意識も極めて重要であります。

ここでコミュニケーションという言葉が出たのでまた少し脱線してしまえますけれども、冒頭の私自身の新入社員時代の話の中でコミュニケーションの重要性に触れたわけですが、当時と比較して野村も含め日本の会社は間違いなくいい会社になってきたわけです。そこではかつて支配的だった集団主義は影を潜め、そして強制も減り、理不尽な上司は姿を消し、さまざまな職場では知的に洗練された人たちが今や目立つわけです。ただこのような光景を見るにつけ、一方で私自身は自分が奇妙な逆説的、パラドキシカルな状況に直面していると感じています。かつて集団主義が横行していたと申し上げましたが、その多様な価値観の封印であるところの集団主義というのは今や影を潜めましたが、しかし、集団主義が影を潜めても多様な価値観というものは単純には生まれて

こないという逆説に、実は我々は直面しています。あるいは、知的に洗練された人が増えたと申し上げましたけれども、知的に洗練された人が増えたからといって円滑なコミュニケーションが成立しているかという、必ずしもそうとは限らないという逆説であります。その背景には、冒頭の岩崎さんのご紹介にもありましたけれども、企業が置かれた今日的な環境というものがあるかと思えます。業務における今日的な専門性のリクエストや、あるいは業務そのものの複雑化というのは企業や組織全体自体を細分化し、そして個々の運営というものも細分化させていきます。細分化された専門性の世界というのは、コミュニケーションを困難にさせる傾向にあります。部門色の強い組織運営は他部門とのコミュニケーションの総量というものを抑制する方向に働きがちであります。そして、その中ではさまざまな規制というものも整備されています。規制や規則に委ね過ぎて、規制というものがコミュニケーションを途絶させるということもあるわけがあります。コミュニケーションがなければ、多様な価値観は生まれようがないわけがあります。大きな組織運営において求められているのは実は部門や立場を超えた協力であり、それが企業や大組織を前に動かしていく源泉であります。業務が複雑化すればするほど、実は多くのコミュニケーションが求められているというのが今日の状況にもかかわらず、なかなかその要件を満たすようなコミュニケーション機会が確保されていないということでもあります。ハードな組織設定や会議設定といったことに幾ら力を入れてみたところで、このような問題は単純に解決しないわけです。いかにその時点で最善と思われる組織設計や権限設計というものをしてみたところで、必ずそこには何かのすき間が残ります。そのすき間を埋めるものが必要であって、私はそれが非公式ネットワークともいべきものであると思っています。非公式ネットワークとは会社や組織の中で、あるいは会社や組織を越えて自然に形成される、一単位としての組織を越えた人と人とのつながりであり、例えば同期であり、例えばかつて同一の職場で勤務した者同士であったり、同一の場で学んだことのある者同



士であったり、あるいは有志の勉強会といったことも含めてさまざまな場合が存在します。最近、一部の大企業が独身寮といったものを復活させたりしているのは、非公式ネットワークの効用というものを意識していることだと思います。非公式ネットワークというのは、社内コミュニケーションの総量を確保していくための自動安定装置かもしれないと思っています。会議の席上ですとかプレゼンの場のようにスマートな発言という呪縛にとらわれることなく、平凡であっても気楽に何か語り合える場、気分を共有する場こそが必要とされているのだと思います。会社や組織はそのような場を形成するための契機をつくることはできるかもしれませんが、全ては働く人たちにかかっています。若い諸君には、ぜひそこかしこにネットワークを広げる努力をしてほしいと思っています。

さて、本論に戻りますが第2点目にグローバルな視野と書いてあります。日本国内で仕事をしても、グローバル化の波というものは向こうからやってくるわけがあります。そうした環境の中では、世界の変化に対して敏感であることが求められています。今の自分自身にとって直接関係がなくても、国外の動きというものに無関心であってはならない時代に入っているという認識が必要でありましょう。

3点目の多様性に対する受容・柔軟性ではありますが、多様性とは英語でいえばダイバーシティ(diversity)ということになります。今、企業社会ではダイバーシティという言葉が盛んに使われるわけがありますけれども、それは企業自体が働く人に多様性を求めていくということでもあります。特に企業にとって女性・高齢者あるいは外国人といった人たちの活用は大きなテーマになっています。今、日本企業の現場では、かつての男性総合職一本やりだったところからは驚くほどの多様化が進みつつあります。もちろん海外に出れば、さらなるダイバーシティの世界、働く人の国籍・人種も多様な世界が広がっています。

この今申し上げた3つは恐らくグローバル企業ということ的前提にせずとも、現代日本の企業社会で生きる者にとって普遍性を持つテーマかと思われれます。これから社会に出て活躍し、将来指導的役割を担うであろう皆さんにとっては特に必要不可欠なものといえるでありましょう。

さて、ここからまた話ががらりと展開していくわけですが、いきなり投資というような言葉が出てくるわけです。今、指導的役割を担おうとするのは皆さんであるという言葉を使いました。実はこの言葉は

「投資」とは何か

「投資」とは

- 投資とは「未来に向かって何かを投じる営み」である
- 投資には不確実性がつきまとう
- 投資には理論があり、理論は投資を行なう上での道標となる
- 投資の実践においては「バイアス」(偏り)の排除が重要なテーマとなる
- バイアスから自由であるために専門家は様々な努力を重ねる

© Japan Securities Dealers Association. All Rights Reserved. 17

17ページ

この証券奨学財団の目的であります。資質優秀な大学生・大学院学生に対し奨学支援を行い、将来社会の各分野において指導的役割を担おうとする人材を育成し、もって社会の発展・福祉に寄与することというこの財団自身があらわした文章から引用したフレーズであります。今、申し上げたこのフレーズを簡単に言いかえると、皆さんの未来に対して奨学支援を行う営みというふうに言いかえることが可能であろうかと思えます。私はこのような一般論として、未来に向かって何かを投じる営みというものを、抽象的に投資として自分なりに定義しているわけであります。すなわち、本奨学資金制度は皆さんの未来への投資を行っているということであります。皆さんの未来が一体どうなのかということ完全な形で予測することは、およそ不可能であります。すなわち未来を予測して何かを投じる投資という行為には不確実性がつきものであります。それは実際に皆さんの未来に対する投資以外に、お金を未来に向かって投資する本来の意味での投資、インベストメント (investment) という行為においても同様であります。資産運用の世界でも同様であるということであります。違ふとすれば、資産運用の世界においては、不確実性と向き合うということをなりわいにして、そこから対価を得ているかどうかという点であろうかと思えます。そして証券ビジネスや資産運用の世界に生きる人たちは、その不確実性というものをいかにコントロールして最小化するかということに常に頭を悩ませており、そのときの道しるべとなるものが投資理論であるということであります。ただし、投資理論においては一定の前提条件というものがある。それは例えば、全ての情報は市場参加者の間で等しく共有されているといったような現実

的ではないものであったりするわけですが、それであるがゆえに現実との相違というものも非常に大きく存在するわけであります。投資の実務を行うに当たっては、そこに現実的な悩みというものは発生しているわけであります。さらに投資理論があるといっても、資産運用の世界において投資判断というものがある結果的に間違いであったという例は枚挙にいとまがないのであります。なぜ間違いが次々と繰り返されるのか。それは大変興味深いテーマであります。専門家、プロと呼ばれる人たちであっても投資判断において、かなりの回数間違いを繰り返しています。そして間違いというものを回避する絶対の方法論は存在しないわけであります。しかしながら一定の継続的な努力によって、結果としての間違いというものを少なくしていくことはできるというのが私の実感であります。それは資産運用以外に、ほかのビジネスや実社会での活動においても共通する部分であると思えますので、これから少し紹介したいと思います。

まず、私が以前勤めていた野村アセットという資産運用会社でありますけれども、その会社の中で最も優秀と思われるポートフォリオマネージャーは、実際に資金を運用する人であります。何百億あるいは1000億円単位で資金を世界に向かって投じている人であります。その優秀なポートフォリオマネージャーに対して、運用者にとって非常に重要なこと、最も重要なことを1つだけ挙げてくれという質問をしたところ、当該人物の答えは「それはバイアスのないことです」という答えでありました。

バイアスとは一体何か。直訳すれば偏りということでありますけれども、この運用世界の専門用語でいえば、投資判断に際して合理的な根拠なく予断を持って

「投資」とは何か

バイアスとは

- バイアスとは直訳すれば「偏り」ということであり、投資判断に際して合理的な根拠なく予断をもってしまうこと
- バイアスと排除の方法論
 - 歴史を学ぶ
 - 確率・統計
 - 認知心理学 等

© Japan Securities Dealers Association. All Rights Reserved. 18

18ページ

しまうということでもあります。プロの世界でも、あるいはプロの世界であるからこそバイアスというものが発生するということでもあります。人間が行う判断というものは、人間が行うがゆえにその時々周囲の環境、世の中の流行あるいは過去の成功体験・失敗体験、有力者の意見といったさまざまなものに影響を受けがちであり、そこから生じるバイアスというものが判断のゆがみと好ましくない結果をもたらすということは広く知られています。なぜバイアスが邪魔をするかという、直観が邪魔をするからであります。ここでいう直観というのは、直線のチョクに観察のカン、感覚のカンではなくて観察のカンと書いた直観であり、インテュイション (intuition) ということでもありますけれども、直観が邪魔をするからであります。圧倒的な迫力を持って迫ってくる目の前の現実というのは無視しがたく、論理的に理論的に正しくないとわかっているにもかかわらずその現在の間違っただけの現実というものが永遠に続くかのように感じられたりすることさえあります。今すぐ、そのような形で間違っただけのプライシングはされているけれども非常に高い株価になっているある銘柄は、理論的にはどう考えてもこの株を買うことは正しくありません。しかし今すぐこの株を買わなければ、みずからが運用しているファンドの運用成績でとんでもなく劣後することになってしまうと直観は訴えたりするわけがあります。その直観に負け続けると悲惨な結果になっていくわけがあります。実は世の中にはいろんな研究があって、人間の直観的な解と数学的な解というものが著しく異なるというケースについての研究があります。これは認知心理学であったり、その認知心理学を応用した行動経済学という分野において盛んに研究されているテーマであります。直観だけに頼らず、いかに冷静であり続けるか。そのためにポートフォリオマネージャー、専門的な運用者は確率・統計あるいは認知心理学といった学問を勉強しています。どうすればバイアスを排除することができるのか。方法論は幾つかあります。それはここに書いてあるように一つは歴史を学ぶということです。歴史を知ることによって現在や今起こっていることを相対化することができるということでもあります。この場合の歴史とは企業の歴史であったり、運用社会の歴史であったり、国の歴史であったり、あるいは世界の歴史であるということです。マーケットということでいえば、ある株式というものに投資判断を下そうとした際に、その株式の1年間だけの値動きを眺めてそこから何かの示唆を得ようとするのではなく、同時にその銘柄の50年間の値動きも対比し

て見るというようなことになるわけでもあります。

さて、私の講義も一方的にまくし立てているわけでありまして、なかなか退屈にお感じになっていらっしゃる方もいるかもしれませんので、ここで少し問題を考えていただきたいと思います。先ほど申し上げたように直観的な解と数学的な正解というものが著しく異なっていて、数学的な解というものを説明されればその正しさは理解できるけれども、しかしなかなかその最終的な解というものが腑に落ちないというタイプの問題であります。ここには、感染症問題というのが出ています。

「投資」とは何か JSDA

感染症問題

- ある致命的な感染症にかかる確率は1万分の1である。
- あなたがこの感染症にかかっているかどうか検査を受けたところ結果は陽性であった。
- この検査の信頼性は99%である。
- このとき、実際に感染症にかかっている確率はどの程度であろうか。

(出所) すぐれた意思決定 印南一路著
© Japan Securities Dealers Association. All Rights Reserved.

19ページ

ある致命的な感染症にかかる確率が1万分の1あったとしたときに、あなたがこの感染症にかかっているかどうか。試薬を使った検査を受けたところ結果は陽性というふうに出てしまった。感染症にかかっているかもしれない。ちなみにこの検査自体の信頼性は99%ですから、試薬というものは一般的に言えば結構な確率で正しく当てているということでもあります。さて、このような状況になったときに陽性とされたあなた自身が、実際に感染症にかかっている確率は一体どの程度であるのでしょうか。条件つき確率というものを勉強された方にとっては、実はそんなに難しい問題ではないということでもあります。しかし多くの人たちはこの問題に接したときに、検査の信頼性が99%である以上、結果が陽性であったということは、自分自身が99%の確率でこの感染症にかかっているという答えに到達してしまいます。もちろん、こういう問題になっている以上は、その99%というのは正解ではないということでもあります。では、正解は一体何であるか。ここで1万人

に1人の感染確率ということですから、1万人に1人だから1万分の1とかやっているとこの数式が非常に面倒になるので、100万人当たりで何人感染という形で少しわかりやすく変えて解を導いていきたいと思えますけれども、1万人に1人感染するということは、100万人当たりでは100人が感染するということです。まず100万人として、このときに感染したかどうかのテストは100万人全員に対して行われる。当然のことながら100万人を分けると、感染している100人と感染していない99万9900人ということになるわけでありまして。まず、感染している100人に対してこの試薬を使ってテストをしたら99%の信頼性ですから99人が陽性と判定される。この点に疑問はないと思えます。逆に言えば余談ではありますが、1人は、本当はこの感染症にかかっているのに、この100万人に1人の人はかかっているのに陰性と判定されてしまうということでありまして。さて、残りの99万9900人は感染していないわけでありましてけれども、その非感染の99万9900人の対象に検査をすると、その検査の信頼性の確率は99%と書いてあるわけですから、逆に言えば1%は間違えるということです。したがって99万9900人の人に対して1%は間違えて陽性と判定されるということです。その数はいかほどかという、99万9900人の1%ですから9999人。すなわち感染していて陽性と判定された人の99人よりも、感染していないのに間違えて陽性として判定されてしまった人の9999人のほうが、圧倒的に数が多いということでありまして。さて、ここで確率計算をどのようにするかというと、分母に来るのは陽性と判定された人の合計であって、分子に来るのは真に陽性と判定された人ということになりますから、陽性と判定された人の合計はこのように10098人であって、99人が真の感染者ですから、それを除すれば答えが出てきます。0.0098というのが答えになるということは1%弱である。ということは、その検査の前でいうと1万人に1人ということですから、そもそもの確率というのは0.001%だったわけでありましてけれども、この検査によって陽性と判定されたことによって確率は100倍上昇した。しかし、もともと圧倒的に低い確率であったためにまだそれでも1%にとどまるということでありまして。このような問題に対しては、直観でアプローチしようとしてもなかなかうまくいかないわけでありまして。冷静に考えてみる必要があります。しかし現実の世の中では、実は目の前のビジネスの社会においても、このよう

JSDA

「投資」とは何か

問題

- あるオフィスのホワイトカラー100人のコーヒー消費量と仕事の生産性との関係を調べた結果、コーヒー消費量が多いほど仕事の生産性も高いことがわかった。
- 従って、コーヒーを飲めば生産性が上がるので、コーヒーメーカーを全てのオフィスに設置するべきである。
- この判断は正しいか。

(出所) すぐれた意思決定 印南一路著

© Japan Securities Dealers Association. All Rights Reserved.

20ページ

な問題はたくさん存在しているという点に注意が必要であります。

さて、次の問題であります。これは非常に易しい問題です。あるオフィスにはホワイトカラー労働者が100人いて、その職場にはコーヒーメーカーが置いてあって、みんなはコーヒーを飲むようになっています。その彼らのコーヒー消費量と仕事の生産性は一体何か関係があるのだろうかというところを調べた結果、コーヒー消費量が多い職場ほど仕事の生産性も高いということがわかったとする。コーヒーを飲めば生産性が上がるので、したがってコーヒーメーカーというものを全ての違う場所にあるオフィスにも設置するべきであると推論していくのは正しいか。これは皆さんも直観的にどうか、これは正しくないだろうと普通は考えるわけであって、なぜ正しくないかということでもありますけれども、そもそもの推論のコーヒーを飲めば生産性が上がるというのは、実は相関関係と因果関係を誤認しているというところでありまして。コーヒーの消費量が多い部署の仕事の生産性が高い。それは事実であって、その2つの事実が同時に起こっている以上そこには相関があるということですが、コーヒーを飲むことが生産を上げる原因であるという因果関係を何も立証したことにはならないというところがあります。世の中ではよく誤解されます。相関関係と因果関係を誤解したために間違った結論に至ってしまうという、この点は非常には注意すべきであります。このようなわかりやすい例であるとすぐにわかるわけですが、実はもうちょっとわかりにくい例が世の中にはたくさんあります。相関関係と因果関係の誤認ということについては、十分注意しなければいけません。

「投資」とは何か

問題

- 3人の囚人A,B,Cが牢獄にいる。一人が恩赦になって釈放され、残り二人が処刑されることがわかっている。
- 誰が恩赦になるか知っている看守に対し、Aが「BとCのうち少なくとも一人処刑されるのは確実なのだから、二人のうち処刑される一人の名前を教えてくださいも私についての情報を与えることにはならないだろう。一人教えてください」と頼んだ。
- 看守はAの言い分に納得して「Bは処刑される」と答えた。
- それを聞いたAは「これで釈放される可能性があるのは、自分とCだけになったので、自分の助かる確率は1/3から1/2に増えた」と喜んだという。
- 実際には、この答えを聞いたあと、Aの釈放される確率はいくらになるか。

(出所) 確率の理解を深める 市川伸一著

21

© Japan Securities Dealers Association. All Rights Reserved.

21ページ

さて、この21ページですけれどもこれは有名な問題です。3囚人問題ですがこれは説明しません。これを説明して答えを聞くと皆さんは頭の中が混乱してしまうということで、これは答えがついていませんけれども、もちろんこの問題をわかっている方はわかっているでしょうけれども、わからない方は自分で考えて答えを出してわからなかったらインターネットで「3囚人問題」というふうに検索すると幾らでも答えや解説が出てくるので、ぜひそこを見てほしいと思います。これは条件つき確率の問題で先ほどの感染症問題と同様でありますけれども、容易に直観的には答えにたどり着けない問題であるということです。

「投資」とは何か

バイアスを発生させやすい環境

- 「世論調査」「社会調査」を鵜呑みにしない
 - 回答の選択肢
 - 質問文の書き方
 - サンプル数の妥当性
 - 調査対象の妥当性
 - ⋮

回答が変化する

22

© Japan Securities Dealers Association. All Rights Reserved.

22ページ

さて、この22ページは世論調査とか社会調査について、ここでは因果関係の誤認といったこともあるし、あるいは質問文の書き方といったことで回答を変化・

誘導することできるし、サンプル数の妥当性が十分かどうかということによっても調査自体への信頼性や回答が変化するということがあり、新聞や雑誌等がよく行っている世論調査や社会調査というものに対して、必ずしもそれを全て疑ってかかるというわけではありませんが、それに向かうスタンスとしては、うのみにせず、自分でしっかりよく考えてみるということが重要であるというところであります。

本当に必要なものは何だろうか？

「グローバル化」「グローバル・スタンダード」

- 「グローバル化」
 - ⇒メディアが掲げる「日本人かそうではないか」という分別基準は正しいか？
- 「グローバル・スタンダード」というある種「偏った」価値観
 - ⇒無条件の日本批判・自虐、無条件の海外礼賛(特に欧米)に繋がる

自分自身の「根」となるものを持つ

24

© Japan Securities Dealers Association. All Rights Reserved.

24ページ

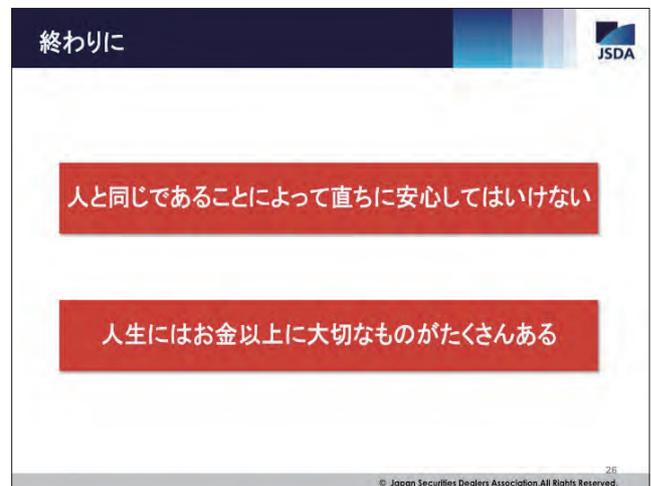
さて、いよいよ最後のパートに入ってきたわけでありすけれども、ここまで、グローバル化であるとかバイアスの排除ということを申し上げました。さらにもう一つのキーワードとして、コミュニケーションということも申し上げてまいりました。グローバル化という言葉が使われ出して久しくなりますが、日本のメディアもそれをあるべき姿として説き続けてきたわけでありすし、企業の経済活動も国境を越えて広がっているというのも事実であります。しかし、ここで冷静にならなければいけないわけでありまして、その企業の経済活動の結果として国境線が変更されたというようなことがあるということ、企業活動の結果として国境線は絶対に変更されないというのが冷徹な事実であります。国境を越えて活動する企業の今日的な悩みというのは一体何かということ、国境を越える活動の中で、日本企業であれば、日本を離れてみずからを世界の中でいかに相対化できるかというテーマと、そして一方で国境線が変更にならない以上は、究極的には日本を離れられないというみずからのアイデンティティーをどこに求めるか、その2つのテーマの間に相克があるということでありす。そこではメディアがよく掲げる、日本人かそうではないかという分別基準は単純に

は通用しないということでもあります。

グローバルスタンダードという言葉もよく使われてきました。この言葉に関していえば、厳然とした世界標準というものが先験的に所与のものとして存在するかのように使われることが多いわけであり、そしてその結果としてこの言葉を突きつけられた側は沈黙せざるを得ないといったことが起こるわけでありますけれども、しかし本当にグローバルスタンダードというようなものが世の中に幅広く存在しているのか。一見したところわかりやすそうな、自分以外の尺度を引っ張ってきて、その尺度に適合していれば安心して適合していなければ不安になる。そのような思考・意識が果たして健全と言えるのかどうか。グローバルスタンダードという言葉に照らして、ほかの人たちと同じであることによって安心とする習慣は健全と言えるのかどうか。決して健全とは言えないというのが私の意見であります。このような思考習慣になれ親しむと無条件に日本批判・自虐・無条件の海外礼賛というバイアスのかかった偏った状態に陥ることになります。当たり前のことではありますが価値判定の尺度は実に多様であります。その多様さを許容する力がないとグローバルスタンダードといったようなへんばな言葉があらわす価値観に屈服していくことになるわけであります。それは一種の思考停止であります。何かと同じことをもってよしとするのではなく、違うものを見きわめる力というものが必要とされている、あるいは意識的に違うものを追求する努力が必要となっているということではないかと思います。日本人かそうではないかという分別基準を使わずに、一方では無条件の日本批判や海外礼賛にも走らずそれでもグローバル化社会の中で活躍していくには一体、具体的にどうすればいいのか。これにはハウツー的な答えは存在しないわけであります。

私なりに重要であると思うものを1つだけ挙げるとするならば、それはここにある個々人が自分自身の根になるものをしっかりと涵養していくということだと思います。そしてその根となるものには、お金の換算できない大切なものがきっとあるはずであります。企業社会というものは営利追求の社会であります。この場合の営利の意図は利益でありお金の価値に換算してさまざまなものが用意され、企業全体の利益もそうありますし、個々の営業などの現場におきましてもさまざまな活動がお金の価値といったものに換算されています。もちろん営利企業としては当然の所作なのでありますけれども、そのような場に日々身を置いて過

ごしていると、嫌でも逆説的にわかることがあります。それは、世の中はお金の価値に換算できるものが全てではないし、お金の価値に換算できないけれどもそれ以上に重要なものがたくさんあるという、実は当たり前のことでもあります。私自身、そういったものの多くを実は学生時代に学んできたということに気がつくわけであります。皆さんにとっては今がその時期であります。皆さんは、自分自身の想像以上に多くのことを実は学んでいるわけであります。私自身、自分にとって知識の体系だけではない、それを越えた多くのものを学んだ学生時代を、自戒を込めて思い出すことが多いこのごろであります。



終わりに

先ほど、グローバルスタンダードのほうでも少し述べましたが、人と同じであることによって直ちに安心してはいけない。人と同じであることに安住してはいけないということ。そして今申し上げました、人生にはお金以上に大切なものがたくさんあるということ。本日はこの2つの言葉を、皆さんへの最終的なメッセージにしたいと思います。皆さんにとって、これからの人生の選択肢はいわば無限大です。自分の努力次第でどうにでもできるし、ぜひ自分の努力次第でどうにでもできるというふうに積極的に考えてほしいと思います。そしてこれから多くのことを学び、社会に大きな貢献のできる人材として羽ばたいていただくことを切に願っております。

ご清聴ありがとうございました。(拍手)

平成25年度 関西地区奨学生懇談会

講演「20年の社会人経験から学んだこと」

証券奨学同友会 関西地区幹事 高田 とし子
(大阪市立大学 法学部 卒業)



高田とし子さん

本日は、「20年の社会人経験から学んだこと」をテーマに講演させていただきます。

私の勤め先は、ただ今ご紹介いただいた日本銀行の大阪支店であり、社会人経験20年間といってもこの職場ですずっと働いてまいりました。その意味で限られた経験ですけれど、これから社会に巣立っていかれる皆さんに、私の経験から何かお役に立つのではないかと思います。混ぜ込みながら、お話を進めてまいりたいと思います。

私は、平成3年、大阪市立大学法学部を卒業いたしましたので、正確には23年近くの勤務経験になります。この23年間の私の仕事のほとんどは、一般の事業法人、すなわち会社の財務分析をすることでした。日本銀行と会社の財務分析という、結びつきが分かりにくい方もいらっしゃるかと思います。

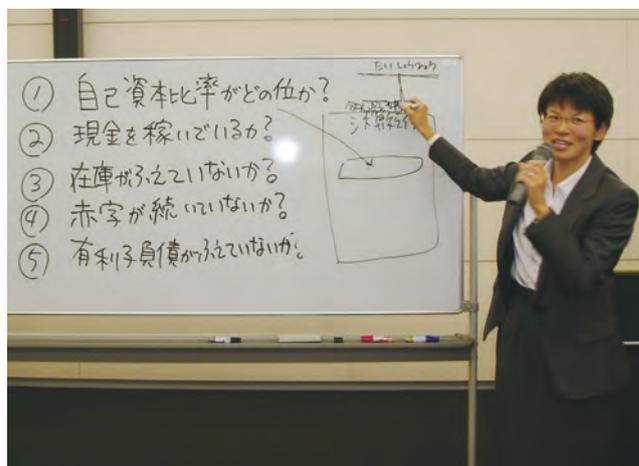
そこで、まず、財務分析に関する基本的な用語について簡単にご説明いたします。1つ目が「自己資本比率」、2つ目が「現金」、3つ目が「在庫」、4つ目が「赤字」、そして5つ目が「有利子負債」です。また、財務分析を行うには、いろいろなツールを使います。例えば、一般の会社にあつては決算書を年に1回作成し、また最近では3か月に1回、四半期報告書を公表する会社もあります。特に決算書は、期末に1年間の事業活動や財務状況が取りまとめられ、会社の経済活動を数字で表したも

のとなります。その構成は、主に、1つ目が「貸借対照表」、2つ目が「損益計算書」、3つ目が「キャッシュフロー計算書」です。

(以下、決算書のこれら項目に関し、意見交換を交えながら説明させていただいた。)

以上のとおり今、簡単な説明でしたが、皆さんに決算書というものを身近に感じてもらうため、また、それをどういう時に、どのように見たらよいか分かっていただくため、ご紹介させていただきました。ちなみに、財務分析は、私の知る限り、最近の静かなブームにもなっています。書店でも、決算書に関する書籍が数多く並べられております。以前でしたら専門書として分類され、難しく敬遠気味なものでしたが、最近は、イラストが入ったり、見開きページで1つの項目を解説してあったり、非常に分かりやすい記述となっていて、初心者にも親しみやすいよう工夫されたものが多く出版されております。

決算書を読めるようになると、会社の見方が違ってくるのではないかと思います。先ほど奨学生の皆さんに、いい会社とは？とお聞きしました。「みんなによく知られた会社」、「コマーシャルができる会社」というお答えが返ってきました。たしかに、「よく知られた会社」や「コマーシャルができる会社」はそれだけ広告宣伝費が注ぎ込めるといことですので、いい会社であることが多いでしょう。でも、会社の「健全性」とか「安定性」という財務分析の要件から見えていきますと、意外と皆さん



- ① 自己資本比率がどの位か?
- ② 現金を稼いでいるか?
- ③ 在庫がふえているか?
- ④ 赤字が続いているか?
- ⑤ 有利子負債がふえているか?



の知らない会社でもかなりいい会社であることが分かったりします。一度会社情報誌などで調べてみると、面白いのではないかと思います。

ざっと駆け足でしたが、会社というものについて、様々な側面から見ることの大切さを分かっていただけたでしょうか。

私は法学部出身でしたので、会社の財務分析の仕事に就いたとき、会計に関する知識が全くありませんでした。しかし、仕事をこなしながら、勉強も重ね、なんとか覚えてまいりました。正直、最初は、なかなかとっつきにくい領域でしたので、もうどうしようかと挫けそうになったこともしばしばでした。けれども、そのときに幾つか支えになったことがあるのです。それは、「会社のことをできるだけ多様な視点で見よう」、そのためにも「自分の先入観で会社を見ないようにしよう」ということでした。そして、それが自分にどれだけできているか、常に心に留めながら日々の仕事に取り組みました。そういう見方をすると、自分の知らないことが結構たくさんあることにも気づかされました。会社の財務分析をするためには、いろんなことを知らないといけないことが段々分かってきました。

例えば、仕事上、決算書を見ないといけないことから会計の知識も必要ですし、また、その会社が実際にはどんな製品を販売しているのかとか、どんな業績を上げているのかといった新聞情動的なことも知る必要がありました。そのほか、株価の動向とか、マーケットの関係者にその会社がどのように評価されているのか、などということも調べないと一つの会社がよく分からないということも分かってき

て、自分なりに問題意識をもっていろんなことを調べるようになりました。

そのようなとき、自分の中に自分とは違った目を持つことが大事なんだと改めて気づかされました。私の仕事上の経験を通じて、皆さんにお伝えしたいのは、「自分から一度離れた視点で物事を見ていく」ことがいかに大切かということです。

例えば、私が友達と歩きながら、「あそこのカレー屋さんってめっちゃおいしいねんで」っていうふうに言ったとしますよね。友達が相手だったら、それって何の違和感もなく伝わると思うんです。でも、それを第三者にも伝えようと文章に書いてみた途端に、すごく謎だらけの文章であることに気づかされます。例えば「このカレーはおいしい」と文章に書いても、読んだ人にすれば、そもそもここってどこなのかとか、このカレーってメニューでは一体どういうカレーなのかとか、おいしいというの何かと比べておいしいと言っているのかとか、意味が曖昧で伝わらない文章になってしまいます。

これに対し、例えば、「大阪の北浜のA店はミシュランで一つ星の評価を得ており、ビーフカレーの売上げが最も大きい」と書いておけば、情報が的確に伝わる文章になってくるだろうと思います。そんなふうに見えるように、いろいろなことを調べて文章に盛り込んでいくのですけれども、自分と違う視点、文章を読んでくれる第三者の視点を常に意識して、つい囚われがちな自分の思い込みを排したり、分かっているからと思い自分では省略しがちなことも、正しく伝わるよう改めて客観的状況を確認するか、比較の対象を置いてみたりとか、いろんな側面を捉えたうえで、工夫して文章を書くように努めています。そういうふうなところを工夫してみると、私自身の視野が大きく広げられていくことを経験として感じました。皆さんにも、そのことを改めてお伝えしたいと思います。



奨学生と証券奨学同友会会員との懇親会(第3回)

「奨学生と証券奨学同友会会員との懇親会」では、平成23年度から、奨学生懇談会に引き続いて開催し、奨学生同士、奨学生と証券奨学同友会会員あるいは財団関係者との交流・親睦を通じて、世代を超えた「絆」で繋がることを強く期待しております。

関東地区での懇親会

東京での懇親会会場は、「如水会館」の「松風の間」に移して開催されました。証券奨学同友会の青木人志代表幹事からの「奨学金というのは、それだけでは「絆」ができてくいが、この財団は、みんなを本当の子供のように思って、温かく育てたいという志を持っている。ぜひそれに応えるように活躍をしていただきたいと思えます。」との挨拶に引き続き、菊地端夫前関東地区幹事から「この証券奨学同友会の魅力は、卒業後もOBの様々な繋がりの中でお互いの交流を深めることができるということです。私も数年前、初めて参加したときには全く見ず知らずの中で一人でしたが、そういった繋がりの中で妻とも出会いました。これからたくさんの出会いのチャンスがあると思いますので、本日お越しの皆さんもぜひ周りを見回してください。」との挨拶の後、乾杯が行われました。また、歓談の中では本年度の新入奨学生や留学生によるスピーチが行われ、交流・親睦が図られました。



関西地区での懇親会

大阪での懇親会は、高田とし子関西地区幹事の「昨年の大阪市中央公会堂に引き続き、大阪証券取引所ビル内での懇談会ですが、証券界に所縁のある場所でこうして集まることができたことを大変うれしく思います。ここに集った皆様のご縁がこれからも長く続きますことを祈っております。」との挨拶に引き続き乾杯が行われました。歓談の中では、奨学生や同友会会員によるスピーチが行われ、奨学生と同友会会員との交流・親睦が図られました。



証券奨学同友会 の活動

証券奨学同友会報
2013

第39号

本財団の奨学生修了者で組織する「証券奨学同友会」は、会員相互の交流・親睦をはかることを目的に活動しております。

1 活動

日常多忙な中で代表幹事並びに関東地区幹事及び関西地区幹事を中心に、大学幹事や会員の皆様のご協力をいただき、会員同士及び会員と奨学生との交流活動を行い、もって本財団の活動に寄与いただいております。

2 機関誌の発行

証券奨学同友会の活動は、各地区で地区幹事を中心に活動を行い、そのひとつとして機関誌「証券奨学同友会報」は毎年発行し、今年度も会員から原稿を募り・編集して第39号(2013年9月)を発行いたしました。

3 証券奨学同友会総会

(1) 関東地区総会

平成25年度の証券奨学同友会関東地区総会は、11月15日(金)午後6時50分から如水会館において会員42名が参集して開催され、最初に青木人志代表幹事からの挨拶があり、次いで菊池端夫関東地区幹事から活動報告及び次期幹事選出について説明が行われた後、全会一致で承認がされました。

(2) 関西地区総会

平成25年度の証券奨学同友会関西地区総会は、11月22日(金)午後6時50分から北浜フォーラムにおいて会員19名が参集して開催され、最初に青木人志代表幹事から挨拶があり、次いで高田とし子関西地区幹事から活動報告及び次期幹事選出について説明が行われた後、全会一致で承認がされました。

	旧 幹 事	新 幹 事
関東地区幹事	菊池端夫 (明治大学)	本多一徳 (明治大学)
慶應義塾大学	冠木敦子	王偉杰 北川まり
同志社大学	寺戸高史	福田健太郎
大阪市立大学	福本晃造	石濱知子

(3) 財団への寄附金募集

証券奨学同友会では、「学生時代に温かい支援をくださった財団への感謝の気持ちを伝える機会のひとつと位置付けたい。」とのご趣旨により、今年度も懇親会の開催に先立ち財団の奨学支援事業のための寄附金の募集を行い、その結果として総勢60名の皆様から総額812,000円の寄附金を賜り、財団に寄附をいたしました。

本財団では、ご尽力いただきました幹事の皆様、並びにご寄附いただいた証券奨学同友会会員の皆様に対して御礼申し上げます。ありがとうございました。

寄附者御芳名

寄附年月日	御芳名	区分	金額(万円)	御趣旨
平25.4.8	大阪証券金融(株)様	法人	20	日本証券奨学財団の設立趣旨に賛同して
平25.4.25	匿名	個人	10	学生時代にお世話になった御礼、 同友会での出会いと結婚の記念に
平25.5.17	木村証券(株)代表取締役会長 木村 茂様	個人	100	事業の支援
平25.7.19	RBCキャピタルマーケット証券会社 東京支店様	法人	5	財団の趣旨に賛同のため
平25.10.10	中京大学心理学部教授 鬢櫛一夫様 (証券奨学同友会員)	個人	10	後進の奨学資金として
自平25.10.16 至平25.11.27	証券奨学同友会	60名	81.2	財団の奨学事業支援の一助として (同友会総会・懇親会への参加会費に代えて)
平25.12.24	大原和彦様 (証券奨学同友会員)	個人	30	奨学金の御礼と財団の事業支援のため
平26.2.25	匿名	法人	10	御財団の育英奨学事業に賛同して

以上の皆様からご寄附を賜りました。厚くお礼申し上げますとともに、事業資金として大切に活用させていただきます。

●ご寄附のお願い

現在、本財団は金融市場の低金利下の中で厳しい財政状況におかれております。

これに伴い、今年度は、事業のより効率化かつの確化並びに資源の適正な配分を目指し、事業の見直しや管理体制の改善を図り、よって経費削減となっております。しかしながら、今後とも事業を続け、ひとりでも多くの資質優秀な大学生・大学院生を支援して、社会の各分野における指導的役割を担う人物を育成したいという財団の目的に賛同していただきたく、本財団関係者の皆様に、ご寄附・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、本財団は「特定公益増進法人」としての許可を受けておりますので、個人寄附及び法人寄附には税制上の優遇措置が講じられております。

●お問い合わせ先

日本証券奨学財団事務局
電話：03-3664-7113 Fax：03-3662-1607 E-mail:sec.office@jssf.or.jp

●お振込先

口座名義：コウエキザイダンホウジン ニホンシヨウケンシヨウガクザイダン リジチヨウ イワサキイチロウ
公益財団法人 日本証券奨学財団 理事長 岩崎輝一郎

口座番号：みずほ銀行 兜町証券営業部
普通預金 0510181

ご芳名を本財団の広報誌等に掲載させていただいております。なお、匿名を希望される方はその旨をお申し出下さい。

本号の主な内容

- トピック 1
- 平成25年(第38回)奨学生修了式 2
- 平成25年度(第40回)奨学金授与式 4
- 平成25年度(第40回)研究調査助成受給者決定 6
- 平成25年度奨学生懇談会 7
- 講演「未来を担う若者へのメッセージ」 8
- 講演「20年の社会人経験から学んだこと」 20
- 奨学生と証券奨学同友会会員との懇親会(第3回) 22
- 証券奨学同友会の活動 23
- 寄附者御芳名 24
- 事務局だより 24

事務局だより

うらかな春風が心地よい季節となりました。本財団の事務所は「春のうらら」の隅田川に繋がる日本橋川河岸から徒歩3分ほどの場所に位置しています。兜町の鰐橋から川面を見下ろせば、(運が良ければ)そこにはマガモやシラサギ、ユリカモメ等、都会に生きる鳥たちの姿を垣間見ることができます。財団事務局にお越しの際には、ぜひ日本橋川バード・ウォッチングをお楽しみください。

■事務局職員の移動

平成20年10月から派遣スタッフとして勤務されてきた島津加奈子さんが、本年1月1日付で本財団職員となりました。引き続きよろしくお申し上げます。

事務局

常務理事	増田 睦
主任調査役	市原 良浩
職員	島津加奈子
同	尾身加代子

JSSFニュース、Webサイトについて、皆様からのご意見、ご感想をお寄せいただきたくお申し上げます。